

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第2回上越市学校適正配置審議委員会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 上越市立小中学校適正配置基準の見直しについて（非公開）

3 開催日時

令和元年12月18日（水）午後1時30分から

4 開催場所

上越市教育プラザ 中会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

議題については、市の機関内部における意思形成過程に係る内容のため非公開としました。

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：歌川孝（委員長）、大滝幸治、折笠正勝、笠原文臣、河野麻沙美（副委員長）、
杉本正彦、高橋久美子、竹内学、中戸賢裕、細井一貞
- ・事務局：教育委員会 野澤教育長、早川教育次長、柳澤教育部長、
教育総務課 金子課長、藤田参事、塚田副課長、内山企画係長、森主任

8 発言の内容

(1) 開会

(塚田教育総務課副課長)

ただ今から、令和元年度第2回上越市学校適正配置審議委員会を開会させていただきます。委員の皆様には、ご多用の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本日は、10名の委員からご出席いただいております。「上越市学校適正配置審議委員会設置要綱」第6条第2項の規定により、委員の半数以上が出席されているため、会議が成立していることをご報告いたします。

(2) 挨拶

(塚田教育総務課副課長)

はじめに、教育長の野澤よりご挨拶を申し上げます。

(野澤教育長)

年末のお忙しい時期にお集まりいただきましてありがとうございます。心からお礼を申し上げます。

8月に開催しました第1回の学校適正配置審議委員会以降に、教育委員会として取り組んできたことを少しお話しします。

複式学級をどう捉えるかということについては、色々なご意見がありますが、第1回の審議委員会でもお話したように、我々の立場としては、教育環境としてどうかという視点で、現在複式学級がある小学校と5年以内に複式学級の発生が見込まれる小学校9校で、私と保護者の方とで意見交換会を重ねてきております。

複式学級に対して、教育委員会としてどう考えるかということを中心に申し上げるのではなく、これからの教育環境がどうなっていくべきか、つまりそれは新しい学習指導要領の中で、新しい社会を見据えて教科が入ってくると同時に、アクティブ・ラーニングという新しい指導方法というか授業のあり方、これまでのように知識を教え込むということよりも、色々な意味で正解がある世の中ではなくなってきたので、物事を議論して納得解を形成していくような授業になっていくという話をさせていただく中で、数人の中で納得解はあるのだろうか、広い社会の中で納得解を得ていくことを身に付けるには一定程度のクラスの人数というのは必要ではないか、また非常に少ない人数では社会が形成されてしまって、何か意見を言ったり、反対意見を言いにくいというようなことも含めて、お話を進めてきました。

この間ではっきりしたのは、お母さん方のほとんど、特に複式学級が見込まれる学校のお母さん方は、すぐにでも統合を考えて欲しいし自分たちも何とかしたいとおっしゃっています。ただ、お父さん方はそうではないところがあり、これは実に簡単な話ですが、その地域で生まれても育ってもいないお母さん方は、学校という機能について考えていらっしゃいますけれども、その地域で生まれ育ったお父さん方は、地域社会の中で役目を持っている方が多いので、地域の方から学校がなくならないように言われているというような正直な話も伺いました。

板倉区は、このたび統合について話がまとまりました。これも今の時代を反映しておりまして、本来であれば区内4校で新しい校舎を造って統合するという話になるのですが、4校それぞれの学校の事情が違っていました。宮嶋小学校と山部小学校は複式

なので早く統合したいという思いがありますが、豊原小学校ではまだ複式はありませんし、学校のそばに住宅団地があり合併前上越市から移住されてきているという経緯があります。そうすると、板倉区で統合するよりも、少し違う方向を見ると三郷小があり、その先には城西中学校もあるということになります。板倉区にお住まいはあるけれども、合併前上越市の方を見ていらっしゃる方々のご意見をまとめていくには4、5年かかりそうだという中で、それは待てないということで、新しい校舎を造って区の学校を1つにするのではなく、抱えている課題を早く解消しようという選択をし、令和3年4月に3校統合という話になっています。

また、新しい動きの一つとして、大島、浦川原、安塚の中学校について、もう区で何とかするという時代ではないのではないかという声がPTAからあり、一緒に議論をしています。

子どもが少なくなることで、教育環境が変わってきています。もう一方で、先ほど申し上げたように将来を見据えると教育の内容や方向が変わりそうだという極めて難しい時期になってきています。大事なのは、お互いの立場で議論していくことだと思いますので、本日は、賛成、反対ということではなく、こういう考え方はどうかというようなことをぜひ聞かせていただければと思っています。

事例として、今年度の古城小学校は、新1年生がいまませんでした。加えて、転校してしまった子もいるような状況であります。今後については、保護者の皆で話し合いをしてお互い納得するしかありませんので、今そういったことをさせていただいております。

ここでは、学校の適正配置ということをやっています。配置は最後の結論でございますので、学校やクラスのあり方、学校の学級数のあり方を議論し、その結果として学校の配置はこうなるという話になると思っています。区という境についていよいよ考える時期にもなってきたことを含め、ご意見をぜひお願いしたいと思っています。

蛇足になりますが、幼稚園と保育園も、少子化かつ無償化という中で子どもの動態が大きく変わってきています。市では、これも極めて大きな問題だと思っています。市の幼稚園部門と保育園部門で共同の会議を持ち始めたところでもあります。子どもの数が減る中で、なかなか制度が追い付いていないということで、特に幼稚園と保育園は、私立で経営をされている方もいらっしゃいますので、そういうことも出てきたということでございます。

いずれにしましても、それぞれの皆さんのお立場での意見をご期待申し上げ、挨拶と

させていただきます

(塚田教育総務課副課長)

続きまして、歌川委員長からご挨拶をお願いいたします。

(歌川委員長)

少子化の波と言うと語弊があるかもしれませんが、来るべきものが来ているという感じがしております。12月初旬の新潟日報で、おそらく全国の新聞社が記事にしていると思いますが、厚生労働省が2019年度の出生数の予想値を出したということがありました。それを見てはっとしたというよりは、そうなのかと改めて感じたわけですが、ある一つのボーダーラインとして考えていた90万人を下回りそうだということです。そして、その記事の中に小さい文字で、90万人を下回るのは2年後の2021年度の予定だったが早まってしまったということが書いてありました。これからは少子化の流れといいますか歯車が予想以上に回るかもしれないと、どきっとしたところがあります。

今日は事務局からご提案をいただいて議論をしていくわけですが、今ほど教育長からお話があったように、様々な立場から色々なご意見があることは皆さんもご承知のことだと思っております。私たちも、ある意味ではそれぞれの立場から意見を述べるということが大事だと思っておりますし、あわせて共通の立場というものもあるかと思っております。その中でも、一つにはやはり子どもの目線に立つということが大事だと思います。以前、私も校長という立場である学校にいましたが、少しもめたことがありました。その時に、子どもの目線に立って考えたらどうかということをおっしゃってくださった方がいて、そこでみんながはっとしまして、少し話を前に進めていくことができたということがございました。共通の土台と自分の知見を重ね合わせながら、様々な面からご意見をいただければと思っております。

(3) 議事

非公開

(4) その他

(内山係長)

本日審議いただいた適正配置基準につきまして、事務局では、今回の審議結果を今後の教育委員会会議や市議会所管事務調査に報告し、年度内には正式決定したいと考えております。

また、次回の当委員会の開催につきまして、次回は、令和2年度の前半を予定しており、各学校の最新動向を踏まえ、適正配置の具体の検討をいただきたいと考えております。

(歌川委員長)

本日は、皆様から会の進行にご協力いただき、ありがとうございました。

(5) 閉会

(塚田教育総務課副課長)

以上を持ちまして、本日の委員会を終了いたします。委員の皆様、本日はありがとうございました。

9 問合せ先

教育委員会教育総務課企画係 TEL : 0 2 5 - 5 2 6 - 5 1 1 1 (内線 1 0 3 0)

E-mail : kyouikusoumu@city.joetsu.lg.jp